

福マネット

<発行日>
平成23年12月1日

第3号

「福マネット」とは「福島のカマナジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 会長
千葉 喜弘

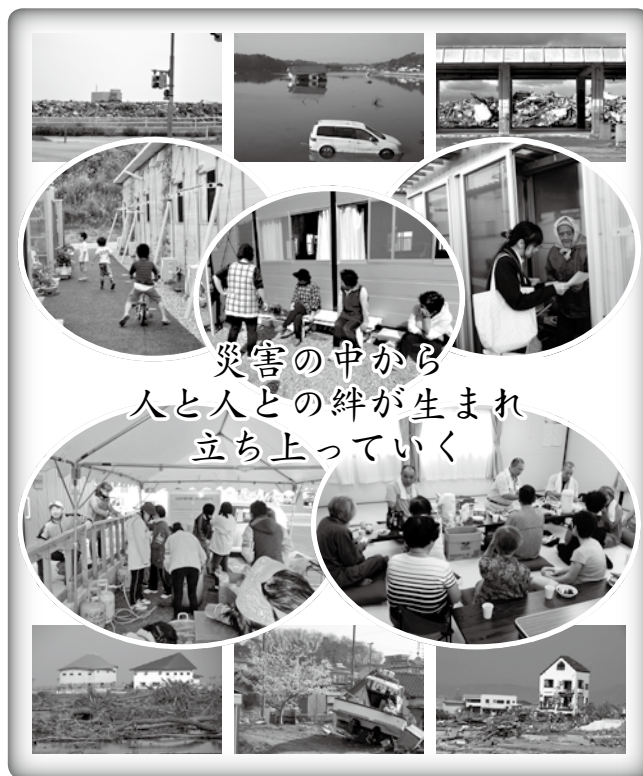
あの大地震から半年以上が過ぎ、ようやく日々の生活と自分自身を見つめなおすことが出来始めています。私たち介護支援専門員は、利用者様の生活を支え、ニーズの実現のためにお手伝いをしていました。

しかし、この大地震と原発では個々のニーズより先に生活基盤を失いました。生きることへの優先のために個々のニーズは押さえつけられた時期もありました。命から生活へ、そして、コミュニティ復興へ向かうために本当に大切なものと実感できたことは、人と人とのつながりでした。家・物・金があれば、人は生きていけるものではなく、人との交流、地域との交流、そして何より生きていて楽しいという実感が必要でした。人なくして地域など存在しない。そして人が集まれば新たなコミュニティが自然発生することも体験できました。

今年5月より相談支援専門職チームの事業受託団体となり6団体の専門職がそれぞれの視点と持ち味を発揮して、被災者のみならず地域の支えとなって活動されています。時間の経過と共に活動の姿は変化し、その他の求められる支援が形作られて

います。皆様の活動に心から敬意と感謝を申し上げます。

私たち介護支援専門員は利用者支援に留まることなく、地域ケアの担い手として、地域のカマナメントができる存在であると思っています。一人ひとりの力量の範囲内で無理なく、長期継続的に支え合いのネットワークづくりに取り組んでいきましょう。そのために本協会が皆様の活動の後押しを担えれば幸いと思っています。「身近で支えてくれている人を、支えることが大切」というスローガンのもと、できることから一步一步、進んでいきましょう。歩んでいくうちに風景は変わってくるものです。



災害の中から
人と人との絆が生まれ
立ち上っていく

目次

巻頭言.....	1
レポート「浜通りからの声」.....	2
県内各地で活躍中!	
相談支援専門職チームの活動報告	3
協会ホームページ関連.....	3
口座引き落としについて(お願い)	3
生活支援相談員の取り組み.....	4

ハイライト

- ◆被災され今も頑張っているカマナ(仲間)の声を紹介します。
- ◆東日本大震災における被災者支援の取り組みについて紹介します。
- ◆会員会費の口座引落について掲載しました。

レポート

「浜通りからの声」

東日本大震災で当協会でも多数の会員が被災しました。その中でも地震・津波・原発など何重にもかさなる被害の影響を強く受けた浜通りの会員からお話を頂けました。

くにみの郷 大井 利巳

南相馬市原町区にある私の事業所は、地震と津波の被害はなかったが、原発事故でスタッフは激減し、東日本大震災から10日間で全サービスが停止した。この間の様子は枚挙に暇がない。

その後は、特に入所系サービスが行えず、一部の訪問・通所系事業所が5月から活動を再開する中、会社としては慎重な構えが続いた。事業再開を望む声は、利用者からもスタッフからも途切れなく寄せられる。電話対応のみで、再開できない無力さに自分を責めた時期だった。

6月半ば、ボランティアの一環で自社の通所が活動を始める。緊急時避難準備区域の指定解除が濃厚となった8月からは再開準備が進み、10月上旬にはサービスの半分を開けられた。当面の課題は、スタッフの確保に尽きる。執筆時点でもスタッフが半分しかいないが、粘り強く来春までには全面再開を目論んでいる。過去の状態に戻すというより、新しい活動を興すといった方が良いだろう。

相馬市地域包括支援センター 愛澤 俊行

このたびの東日本大震災により、被災をされました皆様には心からの哀悼とお見舞いを申し上げます。

我が相馬市も平成23年3月11日の震災により津波の被害に遭い、相馬市の海岸部が壊滅してしまいました。被害を受けた方たちがその夜から「相馬市総合福祉センター」に避難してきました。それに伴い、社会福祉協議会職員である我々地域包括支援センター職員も「避難所運営」を強いられました。一部職員を除いて6月17日の避難所解散まで24時間勤務の交代制で休日なしでした。

支援物資の仕分け、食事の提供、福祉相談や健康相談など介護支援専門員の業務とは違う業務や地域や避難者の変化に戸惑いながらの仕事でした。中でも嫌だったのは「遺体安置所行」のバスの送りは辛い仕事でした。

まだ、相馬市も落ち着きを取り戻してはいません。市民や避難者の方たちの苦痛と苦悩を共感した支援をして復興に協力しています。

都路まどか荘 遠藤 由貴恵

3月11日震災後より、利用者の安全確保のため、食堂・ロビーへ全員集合して頂きました。余震が続いたため、夜勤の職員を倍の6名に増員、又非常時に備え看護師1名を含む合計11名で一夜を過ごし

ました。

ライフラインは特に問題なく通常業務を行いましたが、3月12日16時30分、法人本部より避難の準備をして待機の指示があり、内服薬・非常食・着替えの準備をして待機、19時法人事務局より「船引こぶし荘」へ避難するように指示があり避難を始めました。

同法人4ヶ所の施設から、リフト車と職員の応援があり22時30分、全利用者48名・短期入所者14名の避難を無事終了する事ができました。

又、職員も自宅へ戻ることが出来ず、避難所へ避難する者、利用者の側で仮眠を取る者など、慌ただしい日々を過ごしながら夢中で介護を行い、利用者の生活を守ろうという、職員の熱心さに感謝するばかりです。

震災後約1ヶ月間は入浴する事が出来ませんでした。皮膚のトラブル等もなく4月12日、2回目の移動を同法人の「ときわ荘」へ行き、利用者の生活もほぼ通常に戻り、今も避難生活をしています。が穏やかな日々を過ごしています。

9月30日「緊急時避難準備区域」が解除になりましたが、東京電力福島第1原子力発電所に近いことや除染を行っても住めるのか、という不安があります。

早く元の施設に戻りたいという気持ちと、不安を抱えた気持ちと様々な事が入り混じり本当に複雑な気持ちですが、「今」仕事がある喜びと、助けられた利用者の命をこれからも大切にしていきたいと思います。



「都路まどか荘」の利用者様が、「ときわ荘」へ避難する様子

The screenshot shows the JACS website with several annotations:

- Step 1:** A red circle highlights the "会員登録情報" (Registration Information) link in the top navigation bar. A red arrow points from this circle to the "会員登録情報" link in the left sidebar. A red box highlights the "会員登録情報" link in the left sidebar. A red arrow points from this box to the "会員登録情報" link in the left sidebar. A red arrow points from the "会員登録情報" link in the left sidebar to the "会員登録情報" link in the left sidebar.
- Step 2:** A red box highlights the "ログインID" (Login ID) field in the login form. A red arrow points from this box to the "ログインID" field in the login form. A red arrow points from the "ログインID" field in the login form to the "ログインID" field in the login form.

生活支援相談員(ライフサポートアドバイザー)活動のご紹介

県内各地の仮設住宅で、なくてはならない存在として活動している生活支援相談員。

県内の各仮設住宅の実情に合わせて生活支援相談員の活動も実に様々です。

今回は一つのモデルとして須賀川地域での活動内容と、富岡町の生活支援相談員のインタビューをご紹介します。

◆ 須賀川地域での活動 ◆

須賀川市では須賀川市社協が生活支援相談員(ライフサポートアドバイザー(LSA))を4名配置し、行政、社協と連携し、各応急仮設地域(4か所)へ支援を開始しました。

《震災後の主な活動内容》

- ・入居者やニーズの把握、情報収集の為の個別訪問
- ・仮設住宅地域の交流会、意見交換会、介護予防教室等の企画、実施
- ・市内専門職支援チームの定例会への参加、行政・民生児童委員との意見交換(連携)

被災者の方の生活支援、復興支援の為、被災者と行政、関係機関間のパイプ役となり、被災者の方が住み良い地域となるよう活動しています。

《今後の支援活動》

- ・個別訪問による定期的な継続的支援活動(ニーズの発見・関係機関への情報提供、連絡調整等)
- ・生活全般における見守りや情報提供
- ・住民同士のつながりの場の形成(ふれあいいきいきサロン・茶話会等)
- ・住民主体による見守り。支援ネットワーク活動支援
- ・関係機関等とのネットワークづくり

被災者の方の支援(自立支援)をめざし、必要なサポート体制の構築と実践を通し、再建に向けた実現可能な方策を被災者の方と同じ目線で進めて行きます。



ライフサポートアドバイザーにインタビュー

富岡町社会福祉協議会(大玉地区担当) 根本秋子さん

富岡町では11名の生活支援相談員が大玉村、三春町、郡山市などの各仮設住宅で活動をしています。各仮設住宅ごとの問題や実情に合わせて業務内容も様々ですが、主な活動は、健康サロンへの参加呼びかけ、一人暮らしの方の緊急連絡網作成、また救援物資の種類により必要性の高い方々へ振り分けたり、介護を必要とされる方を介護保険制度につないだり、健康上のリスクの高い方を町の保健師につないでいくといった事です。

震災前の仕事が介護支援専門員、介護福祉士、社協職員など様々なので、連絡会議により全員の経験を生かせるようにしています。「本人が気付いていない生活上のリスクを見極めて声をかけていく場合、本人が(健康サロンや保健師と会う)必要性を感じていないので関わり方が難しいです。最近では生活資金に困窮する方が増えて来たり、飲酒量が多くて閉じこもりがちな男性が増えてきたので町との連携を密にして対応していきたいと思います。」との事でした。

発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会長：千葉喜弘

事務局：郡山市亀田二丁目19番地14号 チャレンジビル2階

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報部：小野雅信 太田大 仁井田義弘 貝沼勝敏 伊東靖裕 国分達弥 渡辺芳博 水戸幸一

鹿山奈美 塩田絹代 野内三香子 高瀬芳子 丹内美樹男